

2023年  
No.99  
4月1日発行

## 国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION (KIFA)



## 第43回こだいら市民駅伝大会

2月5日(日)

3年ぶりにこだいら市民駅伝大会が開催され、KIFAは男女1チームずつの参加となりました。男子チーム『KIFA のび太』は、その名付けのきっかけとなったベトナム出身の留学生とフランス出身の留学生、イタリア出身の語学講師、KIFAボランティアの日本人と、20～50代の幅広い世代です。女子チーム『KIFA しずか』は、中国出身の留学生、フランスの大学から来たイタリア人留学生、急遽メンバーになった台湾からの留学生でした。

12月から隔週で練習していると聞き、1月28日(土)午後、約2時間の練習を取材しました。学園西町地域センターで入念にストレッチをした後、本番と同じ3.1kmのコースを走り、一橋大学小平国際キャンパスへ移動して構内でジョギング、合計6km走ります。監督4年目で自身もランナーの藤吉さんは、走っている姿勢を自分で見られるよう、並走してビデオに撮ったものをLINEグループにあげていました。「前回のコースタイムより早くなったし、フォームが良くなったよ。」などと、選手一人一人に声掛けしている姿が印象的でした。

本番の2月5日、中央公民館前に朝8時に集合して、緑のチームTシャツにゼッケンを付けました。今まで練習に来られなかった選手との初めましての挨拶もあり、そういう気軽さもKIFA チームの特徴なのかもしれません。少し緊張気味の選手もいましたが、ボランティアも応援に駆けつけ、青空のもと皆無事に完走できました。

大会の後は学園西町地域センターへ行き、KIFAロビーで昼食を兼ねたお疲れ様会となりました。お茶のペットボトルに俳句が書いてあったことから、駅伝の感想を皆で俳句にしようということになり、以下のような句が出来ました。

はじめてのマラソン走りこれ最後(もうやめる)  
朝早く寝坊しそうで残酷だ  
風強くあと1キロで死んじゃうぞ  
前の人太っているのに早いよね  
冬の風胸に入っている弱さ消す  
走ることを通しての国際交流、来年はあなたも参加してみませんか。





# 世界の料理講座 「ちらし寿司」

2月16日(木)  
学園西町地域センター調理室

KIFA で人気の「世界の料理講座」では、毎回外国人の講師を招いて出身地の料理を教えてもらっていましたが、新型コロナウイルスの影響でしばらく活動が出来ませんでした。ひな祭りが近いこともあり、今回は世界の料理ボランティアが、KIFA の日本語会話教室の学習者などベトナム、中国、台湾出身の6名の外国人達にちらし寿司を教えました。

ちらし寿司を本格的に作るとなると、下準備や手順が多く大変です。そこで、外国人にも手軽で簡単に作れるように市販のちらし寿司の素を使用しました。料理手順の説明が終わると早速各作業を、参加した皆さんにやってもらいました。



仕上げの様子

「緊張しています」と言いながらも、手際良く卵を焼き、茹でたいんげんを切る姿に、ボランティアから「普段から料理をするのですか?」と質問されると、皆「はい」と答えていました。また普段薄焼き卵を作ることがないそうで、「少

し難しいですね」と言いながらも、参加した全員が上手に焼くことができました。

参加者同士で仲良く互いに教わったことを教え合ったり、作業の様子を写真に撮ったり、使い終わったフライパンやお皿を率先して洗ったりと、息が合ったチームワークに感心させられます。機関紙ボランティアがカメラを向けるとピースサインをしてくれるなど、サービス精神も旺盛な皆さんでした。ちょうど下準備が終わる頃にはご飯も炊き上がり、器にご飯を入れちらし寿司の素を混ぜていきます。

次はいよいよ飾りつけです。まず紅しょうが、いんげんを散らしていきます。「かたまりにならないように」とボランティアさんの指導のもと、続けて卵とカニカマ、最後に海苔をまぶして完成です。色鮮やかになったちらし寿司に喜びながら写真を撮っていました。

ベトナム出身の参加者は、「中国語も勉強できて、友達も出来て嬉しい」、「畳の部屋で食べるのは初めてなのでワクワクしています」と嬉しそうに話していました。



ピース

# 第8回小平市日本語発表会

2022年12月11日(日)  
中央公民館

毎年恒例の日本語発表会です。小平市で日本語を学習している在住外国人7人が、約70人の聴衆の前で日本語のスピーチを披露しました。

1人目は西アフリカのコートジボアール出身ブライさん。大学院留学1年目の青年は、大学の友人たちと登った富士山での体験を、たどたどしいけれど、わかりやすい日本語で話しました。高山を登るつらさや、途中で食べたカップ麺が美味しかったこと、頂上から日の出を見てその場で国の家族に電話したことなど、聴衆の笑いと共感を誘っていました。

2人目は香港からの留学生フングさん。在住一年目の若い女性です。日本語が堪能なお父さんを超えたいという思いと、初めての一人暮らしの感想などを語りました。

3人目は2017年沖縄に日本語留学したネパール人青年ヤダブさん。言葉が通じない国で、勉強とバイトでくたくたになりながら頑張りとおした体験を話し、これからも来る留学生達にエールを送りました。今は小平で介護の仕事をしています。



コートジボアール出身のブライさん

4人目、日本人男性と結婚して2019年来日したマレーシアのユーさん。日本へ来てから納豆や生卵などの夫の好物にカルチャーショックを受けたことやマレーシア料理の紹介など、ほほえましい新婚生活が垣間見える話でした。

5人目、ハイキング大好きカナダ人女性のサラさん。東京で仕事をしながら、高尾山だけでも、もう10回以上登ったそうです。日本と海外の登山文化や自然の違いなど、興味深い話のあと自作の俳句を披露してくれました。

6人目、中国人女性サイさん。中国では医師でした。今は日本の医師免許も取ろうと勉強中。日本で不思議に思うのは、焼きそばパン、ラーメンライス、ギョーザライスなど炭水化物+炭水化物が多いのに痩せた人が多いこと。小平の自然が大好きだそうです。

7人目、ミャンマー人男性のテンウインさん。通信設備の企業で働いていた時、日本人女性と出会い結婚。20年前に来日。ラーメン屋のバイトから始めて、飲食関係の仕事の続け、家族を支えてきました。日本へ来てから妻が三つ子を出産し、子どもの育つ姿を見て自分も日本語を学ぼうと決意。いくつかのボランティア教室に通って、2021年日本語能力検定試験の上級(N2)に合格しました。

個性あふれる7人が、日本での生活と体験を、やさしい日本語で話してくれた素晴らしい発表会でした。  
※スピーチ集をご覧になりたい方は KIFA 事務局まで。



カナダ出身のサラさん

撮影協力：こだフォト部



# 通訳ボランティアインタビュー

取材日:2月6日(月)

KIFA では数少ない外国出身のボランティア、浅井エベリンさんにお話を伺いました。フィリピン出身のエベリンさんは日本に来て30年になり、タガログ語、日本語、スペイン語が話せます。普段は英語を教える傍ら、KIFAではタガログ語通訳のボランティアを行い、武蔵野市国際交流協会でコミュニティ通訳の研修を受講しています。

通訳ボランティアとして、日本語がまだよくわからない親子に付き添って病院へ行き、薬の飲み方から退院後のケアまで医師や看護師とやり取りをします。また、学校では校長先生や教職員と子ども、保護者をつなぐ役割を担っています。

エベリンさん自身は、日本に来た当初、日本語がわからず独学で学んだそうです。中学生から30歳までの4人のお子さんを日本で出産し育ててきた経験、そして子どもたちが幼少時に体験した苦い経験から、子ども達を助きたい、そして日本に住む外国人が安心して生活できるように心のケアをしたい、とボランティアを始めたそうです。

外国出身の保護者は、子どもが楽しく学校で過ごせるよう希望していますが、日本の学校の様子がよくわかりません。言葉の壁から、わからないまましていると不安になり、時として「学校の先生は無関心で冷たい」と誤解してしまうケースがあるそうです。

通訳ボランティアをすることで、エベリンさんは、学校の先生達が非常に熱心に外国にルーツのある子どもたちのことを考えてくれているとわかりました。エベリンさんは通訳をすることで両者をつなぎたいと希望しています。

「日本人は外国人を見ると最初はどうか接していいかわからない。それでも何回かやりとりをしているうちに信頼関係を築けるのでやりがいを感じる」、とエベリンさんは言います。

言葉や文化の違いを乗り越えた外国人だからこそ、地域や社会に貢献できることがあります。日本人と外国にルーツのあるボランティアが協働し、支えあうことで一層国際理解が地域に広がります。KIFAには通訳に限らず様々なボランティアグループがあるので(4面参照)、興味を持ったなら気軽に参加してみてください。



エベリンさん

KIFA ボランティアグループに興味のある方はこちら→



寄稿文

## KIFAでのボランティア活動を通して

こども日本語・学習支援教室ボランティア 小笠美枝子

私は現在、KIFAの「こども日本語・学習支援教室」でボランティア活動をしています。それ以前は、都内の公立小学校で37年間学級担任をしていました。

少子高齢化や労働力の減少に伴い、外国人の数も年々増えてきており、学校でも日本語を母語としない児童生徒が増え続けています。KIFAでのボランティア活動は、そんな子どもたちに、週1回の日本語と学習の支援を行うことです。

KIFAに通う子どもたちの「ルーツ」「国籍」「言葉」の組み合わせは多種多様です。日本国籍だが海外で生まれ日本語が話せない子。外国籍であるが日本生まれの子。両親ともに母語が日本語でない子など。一人一人の子どもたちがそれぞれの違った課題を持ちながら日本語の学習に励んでいます。

少しでも日本語学習のお手伝いできればと活動していますが、その吸収力は驚くばかりです。はじめはまったく日本語が話せなかった子たちが、学校生活やKIFAでの活動の中で急速に日本語を話せるようになって行く姿には、目を見張るものがあります。

半面、多くの課題も見えてきます。「母語で話す親に対して、日本語で返す子」「日本語の習熟に反して母語を忘れていく子」など様々です。親は日本での生活に追われ、日本語をじっくり学んだり、子どもとじっくり向き合う

時間がなかつたりで親子のコミュニケーション不全となるケースや、日本生まれで日本語が上手く話せるばかりに、学習でのつまづきが見えにくくなっている場合もあります。各教科の学習の理解が深まっていけない原因を、単に能力的な問題ととらえられ、それが心理的な負担となり成長と共に引きこもってしまう子もいます。

「多文化共生」という言葉が急速に広がり安易に使われがちですが、都合の良い言葉として使ってはいけないと思います。外国にルーツを持つ親が地域とうまくつながっていくことで子どもたちの暮らしも変わります。

そのためにはまず私たちが、国籍・民族・宗教・文化・言葉の違いを認め合える柔軟性を身につけていくことが重要ではないかと思うのです。

多言語の飛び交う歌留多会  
国際交流おり紙でお雑談

美枝子  
美枝子

### 寄稿文募集

国際交流や多文化共生について、あなたの体験談や思いなどを投稿しませんか? 形式は自由です。600~900文字程度。興味のある方は事務局まで。





# こども日本語・学習支援教室 「お楽しみ会」 2022年12月21日(水)

こども日本語・学習支援教室に通う子どもたちを対象にした毎年恒例の「お楽しみ会」が開催されました。当日は12人の小中学生の子どもたちが参加し、用意されたプログラムに沿って進められました。

最初は、ビデオの視聴です。日本の昔話から、「ゆきおんな」と「おむすびころりん」が日本語で上映されました。子どもたちはことばがすべて理解できなかったかもしれませんが、じっと画面に見入って集中していました。ビデオは英語版も用意されており、借りることができると説明がありました。これを機会に色々なお話を見てもらいたいと思います。



次に、小平市ボッチャ協会の小林さんによるボッチャのチーム戦です。子どもたちはABCの3チームに分かれ、①ボールの積み上げ、②ボールの紙乗せ、③ボールの的当ての3種類のゲームに取り組みました。それぞれのゲームのやり方の説明があり、練習、本番と繰り返します。子どもたちは、練習から白熱し

てボールを積み上げたり、投げたり。うまくいくと大歓声が上がっていました。各ゲームの点数により、総得点で順位が決まりました。順位もさることながら、ゲームの面白さに時間はあっという間に過ぎてしまいました。

最後は、子どもたちの一言スピーチです。将来の夢や好きなこと、日本語学習などについて話してもらいました。将来の夢では、通訳者、デザイナー、漫画家、バレーボールの選手など、好きなことは、歌うこと、絵を描くこと、ぬり絵などでした。学習面では、学校で良い成績を取りたい、日本語の勉強を頑張った、算数や音楽を頑張りたいなど、前向きな話を聞くことができました。日本語の勉強は大変でしょうが、子どもたちの頑張りにこれからも側面支援したいものです。

おわりに子どもたち全員にプレゼントが手渡されました。大きな袋の中を見せてもらうと、折り紙、ノート、鉛筆、メモ帳、日本地図の下敷きなど盛りだくさんでした。また、誕生日を迎えた子には、皆のメッセージが寄せ書きされた色紙も渡されました。ボランティアの皆さんの至れり尽くせりの企画に、子どもたちも満足げなお楽しみ会でした。

## 編集後記

最近機関紙ボランティアに学生さんも参加してくれるようになり、嬉しく思っています。本業である学業が忙しいこともあり、安定して参加することが難しいのが悩ましいところです。今後日本人学生や外国人留学生ボランティア同士の交流の場にもなったらいいなと期待しています。(A.C)

# 2023年度は 次のような事業を行います

- I 多文化共生に関する事業**  
日本語会話教室、日本語発表会、こども日本語・学習支援、翻訳や通訳サービス、災害時の外国人支援 など
- II 国際交流に関する事業**  
KIFAのつどい、各種交流イベント など
- III 国際理解に関する事業**  
国際こどもクラブ、世界の料理紹介、多文化理解講座、語学講座 など
- IV 情報収集、調査研究及び広報**  
機関紙(年3回)・情報紙(年10回)の発行 など
- V その他、この法人の目的を達成するために必要な事業**

## ボランティアグループ紹介

内容ごとにグループに分かれてボランティア活動をしています。ボランティアは常時募集しています。詳しくはHPをご覧ください。

- 日本語会話教室 指導(月・金・土の各グループ)
- 日本語会話教室 保育グループ
- こども日本語・学習支援教室グループ
- 翻訳・通訳グループ
- 生活情報提供チーム
- 災害時対応チーム
- 交流イベント(企画運営)グループ
- 国際理解講座グループ
- 世界の料理講座グループ
- 機関紙グループ

## 会員種別(個人)のご案内

- 普通会員(ボランティア活動をする方) 年会費 3,000円
  - 学生会員(ボランティア活動をする18歳以上の学生) 年会費 1,000円
  - 賛助会員(資金面で支援して下さる方・講座の受講生など) 一口 2,000円(何口でも)
- ※団体会員や法人会員についてはお問い合わせください。

## これからの行事予定

今年度、通年講座は下記を予定しています。

◎日本語会話教室	月・金・土曜日
◎こども日本語・学習支援教室	水曜日
◎英会話教室(初級～中上級)	月・水・木曜日(5月開始)
◎スペイン語講座(初中級)	金曜日(5月開始)
◎フランス語講座(初級)	金曜日(5月開始)

※詳しくはKIFAミニレターおよびHPをご覧ください。



発行日 2023年4月1日  
発行 一般社団法人  
小平市国際交流協会  
編集 機関紙グループ  
〒187-0045  
小平市学園西町2-12-22  
学園西町地域センター 3階  
TEL. 042-342-4488  
FAX. 042-347-3003  
Eメール: info@kifa-tokyo.jp

